

糸我小学校だより

令和2年2月3日



春の訪れ ～節分～

「鬼は外、福は内！」元気な豆まきの声がする節分。節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言いました。今では、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけを言うようになりました。立春とは春が立つと書きます。はじめて春の気配が現れるという意味です。旧暦では、このころが1年の始まりでもありました。まだまだ寒い日が続く時期ですが、日差しの強さに春の訪れを感じ始める頃でもあります。

昔、節分には、柊（ひいらぎ）の枝にイワシの頭を焼いたものをさし、門口にとりつけました。季節の変わり目には邪気（悪い気）が入りやすいとされていたので、それを追い払うためにこのような飾りをつけたり、大豆の煎ったものをまいたりしました。今でも豆まきの風習は残っていて、皆さんのご家庭でも行うのではないのでしょうか。そして、豆まきの後、自分の年齢の数の大豆を食べます（年齢より一つ多く食べる地域もあるそうです）。

春は、もうすぐそこまで来ています。一日一日を大切に、子供達が有意義に学校生活が送れるようにし、3学期の良いしめくりができるようにしたいと思います。



危険予知訓練

2月21日（火）に、糸我町在住の花野仁志さんを講師に迎え、5・6年生対象に危険予知学習の授業をしていただきました。

危険予知学習とは、①写真やイラストを見て、そこに潜む危険を予測し、②現実起こりそうな危険に気づき、③事故やケガをしないようにするためには、どのように行動するかを考え、④危機回避するための行動を決定する。といった流れの学習です。

この流れを花野さんに教わった後、子供達は3・4人の班になり、それぞれの班が違った場面のイラストを見て、その場面での危険予知学習を行いました。自然災害と交通事故に関することでの危険予知でした。

子供達は、班ごとに出し合った意見をワークシートにまとめ、発表しました。どの班も一生懸命に危険を予知して意見を出し、危機回避するための行動を考えることができていました。

授業のまとめとして、花野さんは、今回のようなトレーニングを繰り返し行うことで、素早く危険を察知して、自分の身を危険から守ることができるように教えていただきました。そして、万一大きな地震や津波が起こったときには、自分の身を守る人になってほしいと話していただきました。



租税教室

1月27日（月）3限目に、有田市役所税務課の由良さんが、6年生対象に租税教室をしてくださいました。

税金の種類や、使われ方についてのお話の後、税金という制度がなかったら世の中はどうかという内容のDVDを観せてくださいました。税金がなかったら、今普通に私たちが受けているサービスが受けられなくなり、たいへんな世の中になるということを知りやすくアニメで表したものでした。また、税金に関するクイズも出してください、子供達は興味を持って、税金について学ぶことができました。



なわとび大会

1月28日（火）になわとび大会を行いました。全校児童が縦割りの6班に分かれて、「続けてとぼう」、「8の字とび」、「大波小波」、「みんなでジャンプ」の4つの種目をとんで、合計点を競いました。



1位 5班



2位と応援賞 6班



3位 3班

「早く早く」は親心？

「這えば立て、立てば歩きの親心」という言葉があります。親が子供達の成長を願う言葉です。そして、これは決して成長を急がせようとする言葉ではありません。

それに対して私たち大人は、大人の感覚で「早くしなさい。」とつい言ってしまいます。これも親心なのでしょうが、子供達はそうは動いてくれません。そして、ついには怒りが…。そんな時には、まず深呼吸して、鼻から深く息を吸い込みます。そして、ゆっくり長く息を吐き出します。目を閉じて、しばらくその呼吸法に集中します。「そんなことやってられない。」という声が聞こえてきそうですが、これは効果があります。そして、「次は〇〇だから、△△してね。」と急がせる理由を言ってあげてください。

